

ご挨拶

本日は「A-Winds8 2002年春の演奏会」にお越し頂き誠にありがとうございます。
「ころ豊かな文化の香り高き町：大和郡山市」に昨年6月にオープンしたこの
「やまと郡山城ホール」で本日3回目の演奏会を開催し、音楽を通じて皆様方と
こうしてお逢いする機会を持つ事ができましたことにA-Winds一同、心より感謝
しております。

県内にはアマチュア吹奏楽団が数多くあり、個々の活動は中学校や高校をも凌ぐ
ほど熱心で盛んであります。その文化に恵まれた環境に生まれ、我々A-Winds奈良
アマチュアウィンドオーケストラは、1999年10月に新しい吹奏楽団として誕生
しました。発足と同時に活動を始めて以来、1999年12月の「デビュー演奏会」を
初めに、2年半の間に7回の演奏会を開催し、おかげ様をもちまして団員も50名に
成長することができました。これも、皆様方のご指導、ご支援あつての事と厚く
御礼申し上げます。

さて、我々の正式名称は
「A-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラ」です。

この「アマチュア」という表現がとても気に入っています。
がむしゃらに、ひたむきに互いに仲間を信頼しあい、何事にも臆せず、ただひた
すらチャレンジし続けることが、とても自分にあつてゐるし、それにこれはアマチ
ュアだから出来ることだと思うからです。また、既にご存知の方もおられるかと思
いますがA-Windsは最少人数の吹奏楽＝ウィンドアンサンブルを志向しており
ます。演奏面は勿論のこと、運営面も含む活動全般において、団員一人ひとりが
常に『主人公』であり、自分の代役は自分しかできないという意識のもと「責任」
を感じ、「やりがい」に酔いしれて未来への熱き想いを抱き、それを叶えるべく
いきいきとした吹奏楽団を目指し日々活動に取り組んでおります。

創団3年目を迎え、団員一同更に心をついにし、アマチュアらしく今出来る精一
杯の音楽活動に取り組んでいく想いに胸を膨らませながら、団員を代表しまして
今の心境を一句詠ませていただきます。

アマチュアは 襷袢は着てても 心は錦

今後とも、暖かいご指導、ご支援の程、宜しくお願いいたします。

団長 魚谷昌克

本日は何かとお忙しい中ご来場賜り有難く厚く御礼を申し上げます。

さて、私たちA-Windsは、「吹奏楽の特性を最大限に発揮できる」と考えて吹奏
楽オリジナル曲を取り上げ続けています。ところでこの「吹奏楽の特性」ってな
んなのでしょうか。実は私たちもその答が知りたいと思って活動を続けているよ
うなものなのですが、たとえば行進曲に代表されるような、明るくて活発で心が
浮き立つような感じ、あるいは、聴き手をやさしく包み込んでくれるような暖か
いサウンド、こういった、いわば「やさしさ・わかりやすさ」が、吹奏楽の特性
の重要な要素であることは間違いないんじゃないか、と個人的には考えています。

今回は、そういう吹奏楽の「やさしさ・わかりやすさ」をよりよく味わっていた
だけの作品を中心にプログラムが構成されています。吹奏楽の経験をお持ちの方
はもちろん、これまで吹奏楽など、まして、吹奏楽オリジナル作品など聴いたこ
とない、という方でもきっと楽しんでいただけるものと思います。最後までどう
ぞごゆっくりお楽しみ下さい。

なお、本公演開催に当り関係各方面よりご支援賜りました事を演奏会実行委員を
代表して厚く御礼申し上げます。

演奏会実行委員長 田中眞二

A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラ

ピッコロ/Piccolo
佐藤 由加里/Sato Yukari

フルート/Flute
佐藤 司/Sato Tsukasa
魚谷 陽子/Uotani Yoko
延澤 優子/Nobezawa Yuko

オーボエ/Oboe
上嶋 悠子/Uejima Yuko
中村 紘子/Nakamura Hiroko

クラリネット/Clarinet
in E♭
長尾 恭子/Nagao Kyoko
in B♭
畑澤 淳子/Hatazawa Atsuko
初岡 ゆき/Hatsuoka Yuki
石田 契子/Ishida Keiko
大江 奈々/Ohe Nana
福田 彩/Fukuda Aya
佐々木 博幸/Sasaki Hiroyuki
辻 美保/Tsuji Miho
植田 洋美/Ueda Hiromi
竹村 明恵/Takemura Akie
Alto(in E♭)
大西 晴巳/Ohnishi Harumi
Bass(in B♭)
加納 宗博/Kano Munehiro*

バスーン/Bassoon
萱原 美華子/Kayahara Mikako

サクソフォン/Saxophone
Alto(in E♭)
小川 陽子/Ogawa Yoko
中井 美智子/Nakai Michiko*
Tenor(in B♭)
初岡 和樹/Hatsuoka Kazuki
Baritone(in E♭)
奥田 ひろみ/Okuda Hiromi

ホルン/Horn
小川 貴子/Ogawa Takako
日置 澄人/Hioki Sumihito
佐伯 直人/Saeki Naoto
久野 耕三/Kuno Kozo☆
次田 哲平/Tsugita Teppei

●団員募集のお知らせ

＜条件＞・A-Windsの活動趣旨(ウィンドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方
・自分で楽器が準備出来る方
・全ての活動に積極的に参加出来る方

＜ハート＞バスクラリネット、バスーン、コントラバス、ピアノ、パーカッション各一名
オーディションはありません。早い者勝ちです。

＜E-Mail＞a-winds@classic.interq.or.jp

●ホームページ●<http://www.interq.or.jp/classic/a-winds/home.htm>

A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラ●1999年10月古都奈良に誕生した新しいアマチュア
吹奏楽団です。現在は、やまと郡山城ホールを本拠地に活動しています。「A-Winds(エイ・ウィンズ)」
の「A」は「アマチュア(AMATEUR)」の「A」であり、アマチュアならではの音楽づくりを追求する
事を標榜しています。演奏者一人ひとりの音楽づくりを演奏に反映できる、管打楽器アンサンブル
の延長上としての最少人数の吹奏楽＝ウィンドアンサンブルを志向し、また吹奏楽の特性を最大
限に発揮できる吹奏楽オリジナル曲を中心に上げていくことを活動方針としています。

トランペット/Trumpet
魚谷 昌克/Uotani Masakatsu
大西 伸幸/Ohnishi Nobuyuki☆
国元 昌広/Kunimoto Masahiro
表 恭子/Omote Kyoko
吉川 茂宏/Yoshikawa Shigehiro
篠木 章江/Shinoki Akie

トロンボーン/Trombone
田口 秀雄/Taguchi Hideo
萱原 淳嘉/Kayahara Atsuyoshi
上田 純子/Ueda Junko
水谷 匡希/Mizutani Masaki

ユーフォニアム/Euphonium
大西 善郎/Ohnishi Yoshio
中村 雅美/Nakamura Masami

チューバ/Tuba
吉村 大介/Yoshimura Daisuke☆
平野 幸子/Hirano Sachiko
岩城 茂夫/Iwaki Shigeo*

パーカッション/Percussion
河津 雅之/Kawatsu Masayuki☆
平井 晶/Hirai Aki
下村 智子/Shimomura Tomoko☆
板垣 麻子/Itagaki Asako
廣田 順子/Hirota Junko
玉井 敦/Tamai Atsushi*
寺西 剛/Teranishi Takeshi*
柳本 真智子/Yanagimoto Machiko*
天野 典子/Amano Noriko*

鍵盤楽器/Keyboard
辻 歩/Tsuji Ayumi*
福尾 正代/Fukuo Masayo*
猪上 佐代子/Inoue Sayoko*

ステージマネージャー/Stage Manager
河村 穰香/Kawamura Yutaka
田中 眞二/Tanaka Shinji

*エキストラ ☆休団



2002・3・24(日)14:00開演

やまと郡山城ホール大ホール



主催●A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラ

後援●大和郡山市 大和郡山市教育委員会 奈良県吹奏楽連盟

●●プログラム

Program

コンサート・ミニアチュア Concert Miniature

レックス・ミッチェル Rex Mitchell

組曲「動物園の一日」 A Day at the Zoo

- 1) 序奏 1) Introduction
- 2) 蝶、鳥、爬虫類 2) Butterflies, Birds and Things that Crawl...
- 3) 象と猿 3) Elephants and Monkeys
- 4) 水族館 4) The Aquarium
- 5) ライオン、トラ、熊 5) Lions, Tigers and Bears...

ジェームズ・カーナウ James Curnow

ロマネスク Romanesque

ジェームズ・スウェアリンゲン James Swearingen

パンチネロ Punchinello

～ロマンティック・コメディのための序曲 Overture to a Romantic Comedy

アルフレッド・リード Alfred Reed

吹奏楽のための第2組曲へ長調 Second Suite in F for Military Band

- 1) マーチ 1) March
- 2) 無言歌“我が愛を愛す” 2) Song without Words "I'll love my love"
- 3) 鍛冶屋の歌 3) Song of the Blacksmith
- 4) ダーガソン幻想曲 4) Fantasia on the "Dargason"

グスタフ・ホルスト Gustav Holst

プラトンの洞窟からの脱出 Escape from Plato's Cave

- 1) 洞窟、苦闘、そして光より来し者！ 1) The Cave, The struggle and the Man from the Light!
- 2) その者のメッセージ「壊れ易い心」 2) Message of the Man (the Fragile Heart)
- 3) 脱出、、、光へ 3) Escape...Into the Light!

スティーヴン・メリロ Stephen Melillo

●●プログラム・ノート

Program Note

文 ■ 河津雅之

●●コンサート・ミニアチュア／レックス・ミッチェル（1929-）

この曲は単一楽章形式の小交響曲です。構成はスローテンポで始まる2つの主題が巧みに展開され、やがて全体を統一する3つのトーンが提されます。全体を構成する緩、急交互に現れる4つの部分は、この3つのトーンによって橋渡しされていきます。オーソドックスな吹奏楽作品ながらも爽やかで、最後は華やかに終わります。

●●組曲「動物園の一日」／ジェームズ・カーナウ（1943-）

初めて動物園を訪れたときの思い出を、忘れてしまった人などいるのでしょうか？初めて目にする光景、音、臭い、それらはみな驚くべきものばかりでしょう。この曲は、こっけいな猿、巨大な象、色鮮やかな鳥たち、うろこのある爬虫類動物、どう猛なトラなど様々な動物たちのしぐさや鳴き声を特殊な奏法を駆使して表現されており、幼いころの動物園の思い出をよみがえらせてくれます。

●●ロマネスク／ジェームズ・スウェアリンゲン（1947-）

11世紀から12世紀中頃にかけて、フランス南部及びイタリア北部を中心にヨーロッパ諸国に行われた建築・彫刻・絵画の様式をロマネスク様式といいます。この時代の美術様式は、建物は小ぶりで壁が厚く、そして窓が小さく、いわば素朴さや謙虚さが特徴といえますが、しかし遙か昔のケルト文化を色濃く残している、奥の深い神秘に満ちた様式でもあります。

●●パンチネロ／アルフレッド・リード（1921-）

マックス・ルケード作の絵本（絵はセルジオ・マルティネス）に『大切なきみ』という物語があります。この曲のタイトルの‘パンチネロ’とは、この物語の主人公の名前です。内容は、ウェミックという木彫りの人形たちが、毎日お互いに金色の星印のシールやネズミ色のだめじるしのシールを貼り合って暮らしている中、だめじるしのシールばかり貼られ、自信を失っているパンチネロというウェミックが、一つもシールを貼られていないルシアという女の子に出会い、ウェミックの創り主のエリのところに行って彼の愛に気が付き、次第に自信を取り戻していく、という物語です。このような物語を題材としていることから、この曲には「ロマンティック・コメディのための序曲」という副題が付けられています。

●●吹奏楽のための第2組曲へ長調／グスタフ・ホルスト（1874-1934）

この曲は1911年に作曲され、『第1組曲』とともに吹奏楽オリジナル作品の草分け的存在といえます。構成は4つの楽章から成り、全曲を通してイギリス民謡が使われています。<第1楽章；マーチ>ルネサンス時代の陽気な踊りであった「モーリス・ダンス」で始まり、ゆったりと叙情的な民謡「スワンシー・タウン」、そして陽気で軽快な「クラウディ・バンクス」と続きます。<第2楽章；無言歌‘我が愛を愛す’>この楽章のメロディは、イングランド島最南西端のコーンウォール地方の民謡で、結婚に反対する両親によって海に送られてしまった恋人を悲しんで歌う、少女の歌です。<第3楽章；鍛冶屋の歌>鉄を鍛える音を金管楽器の強烈なスタッカートによって模倣され、その上を木管楽器とホルンによってメロディが生き生きと奏されます。<第4楽章；ダーガソン幻想曲>イギリスの田舎の踊りと民謡である「ダーガソン」のメロディが何度も繰り返されます。途中「グリーンスリーヴズ」のメロディが重なります。

●●プラトンの洞窟からの脱出／スティーヴン・メリロ（1957-）

古代ギリシャのプラトン（前427?～前347?）の『イデア論』は、この世界には我々が生きている感覚世界の後ろに‘イデア界’という本当の世界がある、と説いています。そのイデア界には、永遠で普遍的雛型、私たちが自然の中で出合うさまざまな現象の原型があるとしました。我々が普段見たり触ったりしている個々の物事は実はこのイデアという原型のコピーにすぎず、本当の知識はイデアを知ることによってのみ得られる、という考え方です。この考え方を、彼は『洞窟の比喩』によって説明しています。この比喩では、洞窟の外の世界はイデア界に、洞窟の中の世界は感覚世界に対応させています。

『人間は地下の洞窟に住んでいて、入り口に背を向け、両足をしっかりと縛られている。そのため洞窟の奥の壁しか見ることができない。そして後ろには高い塀があって、この塀の向こう側を操り人形を掲げた人形使いたちが通り過ぎる。その更に後ろには火が燃えていて、人形は洞窟の壁に揺らぐ影を映している。洞窟の人間が見ることのできるたった一つのはこの影だけで、この世にはこれしかないと思いつている。しかしある時、この洞窟の人間の一人が、囚われの身から自由になる。彼が後ろを振り向いたらどうなるか？まずはそのまぶしさに目がくらみそれまでずっと影しか見たことがなかった人形がくっきりしているのを見て驚くことだろう。そして塀を越えて火の傍らを通り過ぎ地上に這い上がったら、初めて見る鮮やかな色彩やくっきりとした輪郭に、もっと目がくらむだろう。彼は本物の動物や花を見て、洞窟の中ではそのまがい物を見ていたに過ぎなかったことに気が付くのだ。』



2002年夏の演奏会
2002.6.30(日)14:00やまと郡山城ホール●入場無料
交響曲「メキシコの祭り」 H.Owen Reed 他